

2022 年度 明治大学教育会 講演会

テーマ：

「グローバル教育」を見つめなおす：高等教育の現場から

講 師：

山田 亨（やまだ とおる）

明治大学文学部 専任准教授

日本語教育センター長

【概要】

教育の国際化に関する議論は、時代とともにキーワードを変えながら長年交わされてきている。1980 年代以降から現在だけに焦点を当ててみても、「留学生 10 万人計画」を筆頭として、「グローバル 30」、そして、ここ 10 年間の「グローバル人材育成」や「スーパー・グローバル」をはじめとして、新しいスローガンが提言され政策として実施されてきた。このことは、本教育会でも英語教育から海外子女教育、そして、アクティブラーニングといった現場から、多角的で内容豊かな報告・論考がなされてきている。それらの報告・論考の中の斬新的な指導方法やカリキュラムを構築・実践し、国際理解の一層の促進に邁進されている教育現場からの報告はとても貴重であり、高等教育における「グローバル化」とのより一層の革新的な連携が期待できる。

本報告では、これまでの本教育会での議論を踏まえ、大学での「グローバル教育」について再考する。ある程度自主的にカリキュラムを設定しなければいけない大学での学びにおいては、比較的体系だった日本の教育制度に身を置いてきた学生たちが面を食らっていることを目にすることがある。時には自分を見失いそうになることがある大学生活の中で、学生にとって「グローバル教育」は「トップユニバーシティ」や「多様性人材」といった壮大なキーワードのジャングルであり、一層カオスな世界とみられることもある。今回の報告では、報告者が高等教育組織で学生の海外派遣・留学生の受入れの両方の業務での経験を基礎に、学生支援の側面に焦点を当てながら「グローバル教育」の在り方について考察したい。

2022年度明治大学教育会研究大会 分科会概要

第1分科会

「歴史総合」をPBL化する

田中 則仁 先生（日本学園中学高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

本研究は、2022年4月より始まった「歴史総合」を、『「探究」する学びを作る』（藤原さと、平凡社、2020年）に示されたハイ・テック・ハイにおける実践に基づき「プロジェクト学習」（PBL）として展開し、それを「総合的探究の時間」に応用するため、自主的に立ち上げた研究チームとともに考え出した手法とその実践を示すことを目的としている。

1. 研究の背景

- ① 学習指導要領改訂の基本方針・「歴史総合」学習指導要領上の要請
- ② 教科「探究」の導入
- ③ ロシアのウクライナ侵攻

2. 研究の目的

- ① 「歴史総合」のPBL化
- ② 「統制的理念」へのコミットと実現方法の探求
- ③ 「探究」をはじめとする他教科への応用

3. 本研究の方法

- ① 学習指導要領の「学力の3要素」とハイ・テック・ハイの「PBLの9要素」の融合
- ② 「反転授業」の導入
- ③ 「逆向き設計」の授業デザイン
- ④ 「学びの三位一体論」に基づいた探究活動

4. 実践例…現段階での実践の様子の簡単な紹介

5. 展望と課題

〔発表後、討議などで触れてほしいこと、扱ってほしいテーマ〕

「歴史総合」を含めた、PBLを様々な方法で取り組むことに関心はあるかどうか。

第2分科会

学校間における「求める教員」の差異－私立学校の求人情報の分析を足掛かりに

村上 慧 先生（暁星中学・高等学校／名古屋大学大学院）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

教員の大量退職時代を迎えた今日、教員不足が社会問題となり、その窮状が大々的に報道されている。その中でも各学校が高い質の教育を提供し続けるべく、優秀な人材の確保を目指していることは疑いようがないだろう。しかし教職課程履修者の減少などもあり、採用活動を行っても思うように応募者が集まらなくなってきたことも身をもって実感している。

このような教員不足の一因として、「給特法」を根拠とする残業代のない長時間労働など、「ブラック」な労働条件を学生が敬遠していることも指摘されて久しい。そもそも、給特法は公立学校の教員を対象としたものであるわけだが、私立学校の場合、入職するまで給与を含めた労働環境・条件が掴めない場合は珍しくない。例えば、民間企業の求人情報と比較して、私学の求人情報は一般的に情報量が非常に少ない。それは本来異常とも言えるが、内定が欲しい大学生にとって、自身を「就職先を選ぶ側」と位置づけ、「怪しい求人情報」を冷静に見抜くことは難しい。しかし、各学校の求人情報は、一見似たような情報が並ぶ無機質な書面だが、これを読み比べると、求める人材の差異、あるいは学校の特色が浮かび上がる。

例えば、「社会（地歴・公民）」としての採用なのか、あるいは専門科目を重視されての採用なのかには大きな違いがある。また、専任教諭への登用の「可能性がある」常勤講師としての採用なのか、専任教諭を「前提とした」常勤講師としての採用なのかは決して見逃せないだろう。

このような求人情報の細部に着目し各学校の差異に注目することは、採用側にとっては他校との差別化を図り、自校に合った人材確保につながる。被採用側にとっては、自身の理想とする教員像の実現にふさわしい学校への就職の大きな一歩となり得るだろう。

いずれにしても、採用側・被採用側の双方においてミスマッチを防ぐことができるのである。そこで今回は、2022年度上半期に全国の

私立学校（中学校・高等学校）が発表した専任教諭・常勤講師の募集情報を分析し、私立学校の採用活動の現状を考察する。

〔発表後、討議などで触れてほしいこと、扱ってほしいテーマ〕

学生以外に、他校で採用に関わっている先生が参加されるのであれば、その方からの情報提供もあるとより議論が深まると考えます。

第3分科会

相双地区における特色ある教育活動について～勤務校での実践事例をもとに～

根本 太一郎 先生（檜葉町立檜葉中学校）

永井 崇 先生（相馬市立磯部小学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

本県は 2011 年 3 月 11 日における東日本大震災とそれに伴う福島第 1 原発事故による避難などを経験しながら、福島県内各地の様々な特色を生かした教育活動を行なってきました。その中でも我々が勤務している相双地区は、特に東日本大震災による被害が大きかった地域です。津波被害や原子力災害による影響を受けながら、地域の復興とよりよい社会の創造に向け、日々の教育活動を行っています。また、今回の学習指導要領の改訂や GIGA スクール構想など、社会の変化に合わせながら、地域の特色を反映させた教育活動を推進しています。

今回の発表では、勤務する地域の特色を踏まえながら行っている『相双地区ならではの』教育活動について、実際の勤務校での教育実践をもとに紹介したいと思います。

（発表の内容）

- ①相双地区の概要 ②防災教育 ③ICT を活用した教育活動
- ④総合的な学習の時間の工夫

今回の発表を通して、本県、そして相双地区における復興の歩みを知り、福島県の教育について関心を持って頂くきっかけとなれば幸いです。

〔発表後、討議などで触れてほしいこと、扱ってほしいテーマ〕

双方向の学びを実現したいと思うので、遠慮なくご質問いただけたらと思います。また、事前質問等ございましたら、遠慮なくいただ

けたらと思います。

第4分科会

高校3年生の「英語表現Ⅱ」の授業実践～「結ぶ・繋がる」を教室に～

中尾 愛 先生（茨城県立水海道第一高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

発表者は県立高校に勤める英語科教員です。4月の赴任時から高校3年生を担当することとなりました。本校ではほとんどの生徒が大学進学をしますが、英語に苦手意識を持つ者も少なくありません。そのような生徒たちにも、トップ層にとっても、「楽しくて・力のつく」授業のあり方を模索しながら日々教壇に立っています。

本発表は、大学受験を目前にした高校3年生の「英語表現Ⅱ」の実践報告です。教師が一方的に淡々と解説するだけでは生徒たちが主体的に活動する場面は生じにくいと思い、教室でクラスメイトと共に学ぶ意味のある時間にしたいと切に願っています。ここで構想した授業デザインやその実際について発表させていただき、高校英語授業の在り方について会員の皆さんと共有することができたら幸いです。

第5分科会

若手教員と語る学校のリアル 2022

山下 達也 先生（明治大学文学部）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

本分科会では、中学校・高校に着任して3年以内の「若手教員」2名が、日々の教育活動（授業、生徒指導、部活、保護者や同僚教員たちとの関わり、直面している課題等）を紹介するとともに、教員という職業についての自身の考えについて発表を行う。

登壇する2名は、コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、学校がこれまで経験したことのない「非常事態」に着任した私立中高の教員と大学院への進学を経て公立高校の教壇に立っている教員である。

近年、教員の「働き方改革」や免許更新制の廃止、新たな学習指導要領への対応などが注目されているが、そのような中で現場の若手教員たちは学校という場でどのような経験をし、何を感じているのか、そのリアルな姿に迫る。

2名の発表後には、フロアからの質問や感想を受けて全体での議論・意見交換を行う。

〔発表後、討議などで触れてほしいこと、扱ってほしいテーマ〕

教職課程常設部会のため、司会、進行は山下が行い、ゲスト2名が報告を行います。

以 上